

大槻能楽堂改築三十周年記念

# 道成寺

フィステイパル

2013年度 大槻能楽堂自主公演能

各公演2カ月前の同日付より  
チケット販売開始

入場券のご案内

- 前売：S席 9,500円  
A席 7,700円  
B席 6,500円  
学生席 4,800円
- 当日：S席 10,500円  
A席 8,700円  
B席 7,500円  
学生席 5,800円

前売券について

お電話もしくはご来店にてご購入いただけます。お電話でお申し込みの場合は、郵送させていただきます（送料400円・郵便局の振込用紙を同送）。また、大槻能楽堂ホームページ、ローソンチケットでもお求めいただけます。

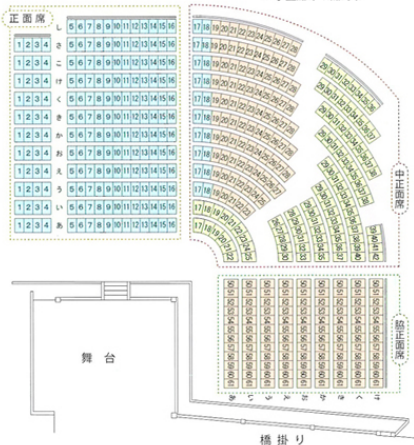
★全5回割引券発売中★

- S席 42,700円
  - A席 34,600円
  - B席 29,200円
- ※一部公演のお席を振り替えさせていただきます  
※一部公演のお席を振り替えていただく場合がございます。

公演日	観劇券	謡曲	舞	能楽
四月二十七日(土) 午後二時開始	能道成寺	青木道喜 上田拓司 古橋正邦 齊藤信輔 梅田嘉宏	大槻文蔵 齊藤信隆 杉浦豊彦 上野雄三 浦田保親 山本正人 武宮康之 大槻裕一	片山剛吾 赤松禎英 味方玄
五月十一日(土) 午後二時開始	能道成寺	上野朝義 大西礼久 大槻裕一 吉井基晴	野村四郎 齊藤信隆 浦田保智 片山伸吾 山本正人 泉雅一郎 武宮康之 水田雄昭	大槻文蔵 上田拓司 山本博通
五月二十五日(土) 午後二時開始	能道成寺	上田貴弘 赤松禎英 上田大介 山田薫 大江信行	藤井完治 多久島利之 齊藤信隆 山本正人 生一知哉 齊藤信輔 水田雄昭 山口剛一郎	大槻文蔵 上野雄三 武宮康之
六月十五日(土) 午後二時開始	能道成寺	大槻文蔵 梅若基徳 武宮康之	井上裕久 齊藤信隆 上田拓司 山本正人 梅若善久 寺澤幸祐 林宗一郎 山田薫	大西智久 梅若基徳 武宮康之
六月二十九日(土) 午後二時開始	能道成寺	大槻文蔵 上田拓司 観世淳夫	上野朝義 齊藤信隆 上野雄三 梅若善久 山本正人 長山桂三 長山桂三 山田薫	大槻文蔵 上田拓司 観世淳夫

見所座席表

S席 A席 B席  
※学生席はB席です



※駐車場はございません。公共の交通機関をご利用ください。  
※本公演における撮影・録音は著作権・肖像権に抵触しますのでご遠慮ください。  
※公演中は携帯電話の電源はお切りください。  
※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。お願い申し上げます。

◎主催：公益財団法人大槻能楽堂  
◎後援：大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・公益財団法人関西・大阪21世紀協会

**会場 大槻能楽堂**  
大阪市中央区上町A番7号

●地下鉄「谷町四丁目」駅下車、⑩番出口を出て南へ約300m。  
(⑩番出口にエレベーター有)  
または「谷町六丁目」駅下車、⑦番出口を出て約350m。  
(⑦番出口にエレベーター有)。

●市バス「国立病院」下車南へすぐ。  
※大阪駅から62系統「住吉車庫」行き、天王寺から62系統「大阪駅前」行き。



# 道成寺



あらすじ

紀州の道成寺では久しく絶えていた釣鐘を再興し、今日はその供養の日。住職は能力に訳あって女人禁制にする事を融れるよう言い渡す。そこへ現れた妖しげな白拍子が舞を見せるという条件で能力は供養の庭へ入る事を許してしまふ。烏帽子を借り舞う白拍子は、人々がうたた寝した際に鐘を狙い引き落してその中へ隠れ消え失せる。

地響きに驚いた能力たちは雷かと思うが、熱く煮えたぎって落ちている鐘を見つけ恐る恐る住職に報告に行く。この次第を聞いた住職は、この鐘にまつわる恐ろしい昔話を語る。真砂の狂司の娘が山伏に恋をしたが、修行中の山伏はこの寺に逃げ込み鐘に隠れる。裏切られたと思った娘の執心は蛇体となって追いつき、鐘に巻きつき山伏を嫉妬の炎で焼き殺してしまった。先程の白拍

子は女の怨霊であろうと、僧侶を鐘にむかつて祈る。鐘があがって中からは蛇体化した女が現れるが、終に祈り伏せられ日高川へ飛び込み消え失せる。

## みどころ

「安珍清姫」の道成寺縁起が題材。激しい女の恋の執心を描いた作品。死んでもなお残る女の執念の恐ろしさが表現されている。舞台には数



十キロの釣鐘が釣り上げられる。(乱拍子)での小鼓の息を詰めた長い間と鋭い掛け声、シテの緊迫した動きと足使い。(乱拍子)の静寂を破り(急之舞)で激しく舞い、クライマックスでシテが鐘に飛び入る(鐘入り)は最大の山場。現行曲の中でも最も大掛かりな大曲。



## まめちしき

狂言の鐘後見によって舞台中央に鐘が出され、天井の滑車を釣り上げられる。シテの鐘入り、また後半の引き上げは、シテ方の鐘後見によって行われる。鐘を落すタイミングはシテの息を合わせての高度な技術を要す。シテは鐘の中では一人で後場の扮装に着替へねばならない。舞台の支柱と天上中央の金具はこの曲のためだけに取り付けられている。

古曲「鐘巻」を(釣鐘)・(乱拍子)を際立たせて、戯曲性よりも技術至上の曲としてまとめたものが現行の「道成寺」である。歌舞伎・舞踊など多くの古典芸能の「道成寺物」の原典である。

## 小書(真式演出)について

■無頭之筋(むようしなのくずし) 乱拍子から急之舞へ移るところで、常は白拍子(シテ)は足拍子を数多く踏み、急之舞となるが、この小書では足拍子はなく、乱拍子の終わり白拍子は間かに鐘に向かい、左手で鐘を指したかと思うと急激に急之舞となる。また、乱拍子の時の型も変わる。

■中之段数踏(なかのたぐさひょうし) 乱拍子の中程、白拍子が扇を手に取り直すところが「中之段」というところで、ここで常よりも数多く足拍子を踏む。

■五段之舞(ごだんのまじ) 急之舞を常は三段で舞うが、これを五段で舞う。長い間(ま)を計り、気迫と気合をこめて打ち込む小鼓の乱拍子の後、賑を切った如く怒涛の勢いで舞い、唯す急之舞は、三段でも難しいが五段になると至難な技術が要求される。

■赤頭之伝(あかかしのでん) 後半、蛇体となって現れる白拍子は、鐘の中にて単身、装束を常よりも多くのものを着替へ、この小書の名の如く髪を赤頭に替えて現れる。狭く暗い鐘の中で自身で着替へるのは大変難しい。

それぞれの小書は、随所に変化が見られる。

## 第四回

四月二十七日(土) 午後二時始

狂言 止動方角 (大原流)  
太郎冠者 茂山あきら  
主人 茂山童司  
伯父 丸石やすし  
馬 井口竜也

能 道成寺 (観世流)  
白拍子後二蛇体 片丸九郎右衛門  
道成寺の住僧 森 常好 (福王流)  
道成寺の從僧 館田善博 (福王流)  
道成寺の從僧 森常太郎 (福王流)  
道成寺の能力 茂山七五三 (大原流)  
道成寺の能力 茂山逸平 (大原流)  
道成寺の能力 道成寺の能力

笛 杉 市和 (森田流)  
小鼓 清水皓祐 (大原流)  
大鼓 白坂信行 (高安流)  
太鼓 上田 悟 (金巻流)

## 第五回

五月十一日(土) 午後二時始

狂言 抜敵 (和泉流)  
太郎冠者 野村又三郎  
主人 松田高義

能 道成寺 (観世流) 無頭少筋  
白拍子後二蛇体 上野雄三  
道成寺の住僧 殿田謙吉 (福王流)  
道成寺の從僧 大日方寛 (福王流)  
道成寺の從僧 御厨誠吾 (福王流)  
道成寺の能力 善竹隆司 (大原流)  
道成寺の能力 善竹隆平 (大原流)  
道成寺の能力 道成寺の能力

笛 藤田六郎兵衛 (森田流)  
小鼓 船戸昭弘 (清流)  
大鼓 山本哲也 (天倉流)  
太鼓 三島元太郎 (金巻流)

## 第六回

五月二十五日(土) 午後二時始

狂言 素袍落 (大原流)  
太郎冠者 茂山千五郎  
主人 茂山童司  
伯父 茂山千三郎

能 道成寺 (観世流) 中之段数踏  
白拍子後二蛇体 上田拓司  
道成寺の住僧 福王知登 (福王流)  
道成寺の從僧 是川正彦 (福王流)  
道成寺の從僧 喜多雅人 (福王流)  
道成寺の能力 茂山正邦 (大原流)  
道成寺の能力 茂山 茂 (大原流)  
道成寺の能力 道成寺の能力

笛 一噌隆之 (二巻流)  
小鼓 観世新九郎 (観世流)  
大鼓 守家由訓 (観世流)  
太鼓 観世元伯 (観世流)

## 第七回

六月十五日(土) 午後二時始

狂言 鐘の音 (大原流)  
太郎冠者 善竹忠一郎  
主人 善竹忠重  
仲敷人 善竹隆平

能 道成寺 (観世流) 赤頭之伝・中之段数踏・無頭少筋  
白拍子後二蛇体 赤松禎英  
道成寺の住僧 宝生欣哉 (福王流)  
道成寺の從僧 館田善博 (福王流)  
道成寺の從僧 御厨誠吾 (福王流)  
道成寺の能力 茂山良暢 (大原流)  
道成寺の能力 善竹忠亮 (大原流)  
道成寺の能力 道成寺の能力

笛 竹市 学 (森田流)  
小鼓 成田達志 (金巻流)  
大鼓 亀井広忠 (観世流)  
太鼓 中田弘美 (金巻流)

## 第八回

六月二十九日(土) 午後二時始

狂言 寝音曲 (和泉流)  
太郎冠者 野村万作  
主人 石田幸雄

能 道成寺 (観世流) 赤頭之伝  
白拍子後二蛇体 観世鏡之丞  
道成寺の住僧 福王和幸 (福王流)  
道成寺の從僧 広谷和夫 (福王流)  
道成寺の從僧 喜多雅人 (福王流)  
道成寺の能力 野村萬斎 (福王流)  
道成寺の能力 高野和憲 (和泉流)  
道成寺の能力 道成寺の能力

笛 野口 亮 (森田流)  
小鼓 大倉源次郎 (天倉流)  
大鼓 河村 大 (石井流)  
太鼓 前川光長 (金巻流)